

平成 17 年度設備投資計画

**総額 199 億 3,900 万円**

車両新造や SF カードシステムの利用範囲拡大など  
鉄道基盤整備を中心に実施します

名古屋鉄道は、車両新造や SF カードシステムの利用範囲拡大など鉄道基盤整備を中心とした、平成 17 年度の設備投資計画をまとめました。

平成 17 年度の総投資額は 199 億 3,900 万円で、中部国際空港アクセス整備を実施した昨年度に比べ、鉄道事業で約 150 億円、総額で約 142 億円の減額となります。

平成 17 年度の設備投資計画の重点項目は、

1. 新型通勤車両 3300 系の新造
2. SF カードシステムの利用範囲拡大
3. 牛島再開発事業への投資や名鉄百貨店・メルサ・セブン館の一体化改装工事着手

の 3 点で、新型通勤車両 3300 系の新造に 22 億 5,100 万円、SF カードシステムの利用範囲拡大や駅集中管理システムの導入に 48 億 4,100 万円、牛島再開発事業への負担金拠出や名鉄百貨店・メルサ・セブン館の一体化改装工事着手などに 70 億 2,600 万円を投じる計画です。

事業別設備投資計画額の対前年比較は以下の通りです。

事業	平成 17 年度	平成 16 年度	17 年度 - 16 年度	(参考)平成 15 年度
鉄道事業	120 億 9,000 万円	271 億 900 万円	150 億 1,900 万円	121 億 7,000 万円
自動車事業		14 億 8,100 万円	14 億 8,100 万円	21 億円
開発事業	70 億 5,800 万円	49 億 4,900 万円	21 億円	18 億 4,000 万円
		900 万円		2 億 1,000 万円
その他	7 億 9,100 万円	6 億 1,300 万円	1 億 7,800 万円	4 億円
総額	199 億 3,900 万円	341 億 6,100 万円	142 億 2,200 万円	167 億 2,000 万円

\* 前期までの自動車事業、不動産事業、その他事業は、一部事業の営業譲渡等により 17 年度から開発事業として表示。

---

## 鉄道事業 [ 120 億 9,000 万円 ]

---

### 1. 車両の新造 < 22 億 5,100 万円 >

17 年度は最新型通勤車両 3300 系を 4 編成 16 両新造します。

3300 系は、ロング・クロスシートを併用し、1 両あたり 3 カ所の乗降扉を備えた次期通勤型車両として 2004(平成 16)年 11 月に登場。ステンレスボディや最新の TICS(列車情報管理システム)を採用するなど、省エネ、低メンテナンス性に優れています。

なお、3300 系の導入に伴い、7500 系パノラマカー 4 編成 24 両を廃車にする予定です。同車両は 7000 系パノラマカーの改良型として 1963(昭和 38)年に登場。その後、7000 系パノラマカーとともに活躍してきましたが、他車両に比べ床面が低く空港線で利用できないこと、乗降扉が 1 両あたり 2 カ所のため乗降に時間を要することなどから、4 編成 24 両の廃車を決定しました。

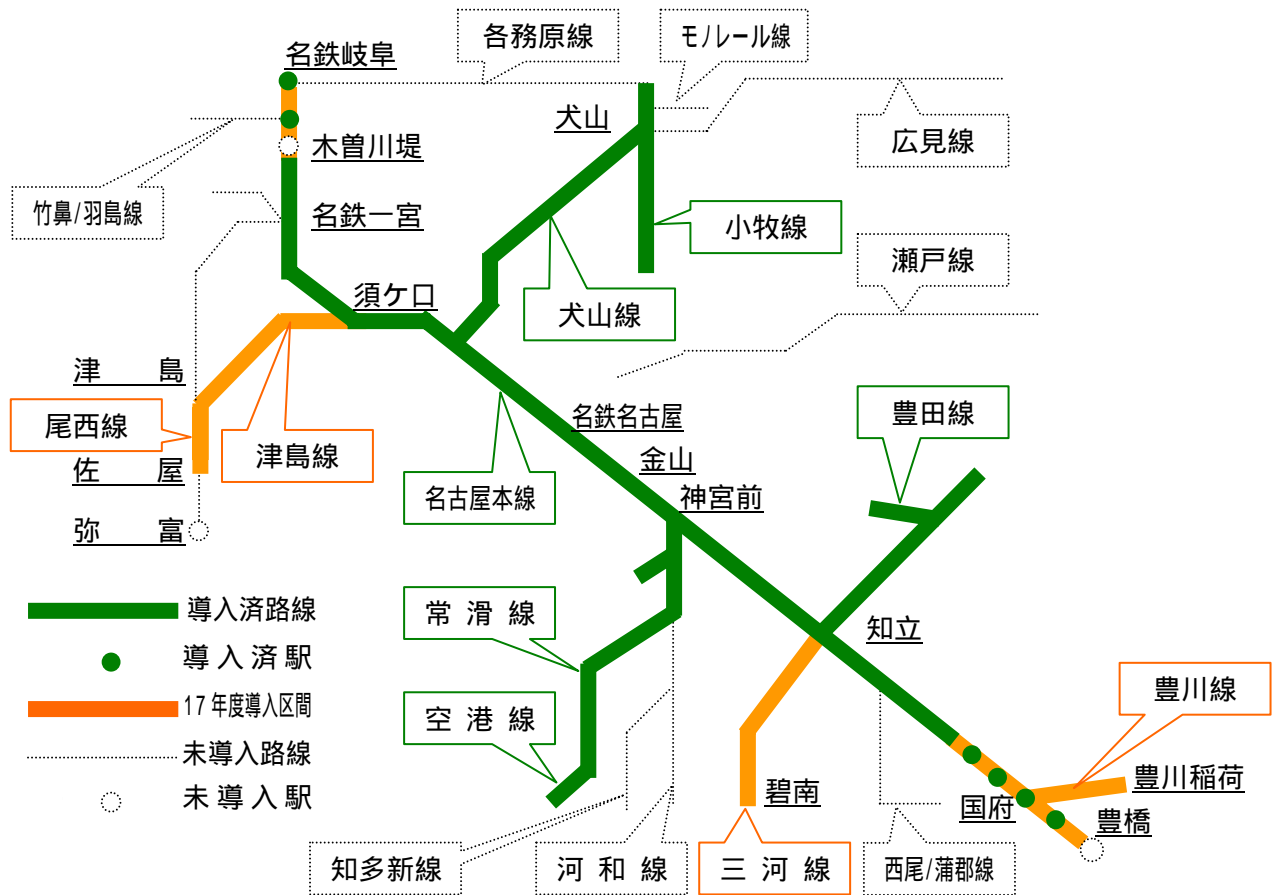


【新型通勤車両 3300 系】

### 2. SF カードシステムの利用範囲拡大と駅集中管理システムの整備 < 48 億 4,100 万円 >

共通 SF カードシステム「トランパス」は、平成 15 年 3 月に小牧線に導入して以来、これまで豊田線、常滑・築港線、空港線、犬山線の各駅および名古屋本線と三河線の一部駅に導入しています。17 年度は、津島・尾西線(甚目寺～佐屋間)、三河線(重原～碧南間)および豊川線の各駅と、名古屋本線で未導入の 12 駅のうち豊橋と木曾川堤を除く 10 駅(小田淵、御油、名電赤坂、名電長沢、名電山中、藤川、男川、岐南、茶所、加納)の計 34 駅に導入します。また、同システム導入に向け、あわせて駅集中管理システムの整備を進めます。これにより、SF カードシステムは全 281 駅(平成 17 年 4 月 1 日現在)のうち 155 駅で利用できるようになります。

【SF カードシステム導入状況】



3. 駅改良工事など < 2 億 4,600 万円 >

1) 柏森駅の橋上駅化

周辺自治体が進める柏森駅周辺整備事業の一環として、柏森駅の南口と北口を結ぶ自由通路が設置されるのにもない、駅務室や改札口を橋上化します。これにより、駅構内踏切を解消し保安度の向上を図るとともに、橋上駅舎と上下各ホームを結ぶ車いす対応エレベーターを計 2 基設置します。

竣工は平成 19 年 3 月の予定です。

## 2.) バリアフリー化

駅施設のバリアフリー化は、国や沿線自治体と協力してエレベーターの設置などを進めており、17年度は津島と黒笹にエレベーターや多機能トイレなどを設置する予定です。さらに新木曾川駅でもエレベーター設置工事などに着手するほか、駅施設の近代化に合わせ、スロープ等の整備を順次進めます。

## 4. 駅施設の整備・改良など < 8 億 2,900 万円 >

### 1) 駅務機器類の改修・新設

駅窓口の混雑緩和と特別車両券「μチケット」購入の利便性向上を図るため、μチケット自動券売機を名鉄名古屋、金山に6台設置します。これにより、μチケット自動券売機の設置台数は名鉄名古屋、金山、中部国際空港駅で合計13台になります。

### 2) パーク&ライド駐車場の整備

鉄道利用促進策の一環として、17年度は新瀬戸で34台分、小幡で17台分、旭前で7台分、本星崎で2台分の合計60台分の駐車場を整備し、パーク&ライドの推進に努めます。

## 5. 検車場や車両の改良など < 8 億 7,100 万円 >

新川検車場では、引き続き改良工事を行い、今年度中の全面的供用開始を予定しています。また、将来予定されている喜多山周辺鉄道高架化事業に先立ち、喜多山検車区を尾張旭に移転する工事に着手します。

このほか、列車の運転士が線路を支障する事態を発見した場合に、付近を走行する列車に危険を知らせる列車防護無線を49編成に装備します。

## 6. 旅客安全対策 < 1 億 4,800 万円 >

終端線過走防護対策として、豊橋駅の車止めを油圧式にするほか 13 駅 20 カ所で車止め装置の強化を行い、11 駅 17 線で ATS 装置の増設を実施します。また、ホームで異常が発生した場合、駅係員や旅客が駅構内に設置したボタンを押し、列車非常停止灯を作動させ、列車の乗務員に駅構内の異常を知らせる列車非常通報装置を道德、大江、新日鉄前、聚楽園、津島の 5 駅に設置します。

このほか、ホームから車両連結部への転落防止を図るため、車両固定連結部の車体側面に、車両転落防止幌を 10 編成に設置します。

## 7. 土木施設の改良 < 8 億 900 万円 >

### 1) 軌道強化・改良など

空港アクセス路線の常滑線大江～大同町駅間と尾張横須賀～寺本駅間、柴田～名和駅間で乗り心地の向上を図るため、延べ 2.4 km でロングレール化を実施するほか、河和線富貴～布土駅間と犬山駅構内、瀬戸線大首根～矢田駅間で、耐久性に優れたコンクリート製 PC マクラギへの交換を実施します。また美観と保安度向上を図るため、名鉄名古屋駅における線路道床の改良工事を実施します。

### 2) 耐震補強関連工事

耐震補強のため、犬山線西春高架橋や名古屋本線堀田高架橋、同線矢作橋～東岡崎駅間の橋梁をはじめ、同線山王～栄生駅間のトンネルなどを対象に耐震補強工事を実施します。

## 8. 電気施設の改良 < 15 億 8,600 万円 >

安定した電力供給を図るため、茶所変電所と犬山変電所の改良工事をはじめ、沿線各所で配電盤や高圧遮断機など電力設備の更新、き電線の増強・改良などを実施します。

また、尾西線萩原～名鉄一宮駅間、蒲郡線西幡豆～吉良吉田駅間などで電車線の機能保全を図るためランサーの新設改良工事を実施するほか、尾西線日比野と瀬戸線栄町で駅構内の列車の安全を確保する継電連動装置を更新します。

## 9. 踏切保安設備の新設改良 < 2 億 9,900 万円 >

踏切事故防止対策の一環として、3 種踏切(警報機のみ)3 カ所を 1 種踏切(警報機・遮断機付)に格上げするほか、より視認性の高いオーバーハング警報機を 2 カ所に設置します。また、踏切の異常を接近する列車運転士に知らせる障害物検知装置を 2 カ所に設置するほか、踏切遮断機を 110 台更新するなど、踏切保安度の向上を図ります。



【オーバーハング警報機】

## 10. 立体化 < 2 億 1,000 万円 >

安全対策の推進と都市計画事業の一環として、引き続き 3 路線 3 カ所で立体化工事を実施します。

路線名	区間	距離	竣工予定
名古屋本線	本星崎～左京山駅間	2.3km	平成 19 年度
竹鼻線	羽島市役所前～江吉良駅間	0.9km	平成 18 年度
常滑線	大江～名和駅間	1.7km	平成 19 年度

## 開発事業 [ 70 億 5,800 万円 ]

### 1. 土地建物事業 < 70 億 2,600 万円 >

名古屋市西区牛島の再開発事業(「名古屋ルーセントタワー」の建設)の負担金を昨年に引き続き拠出するほか、名鉄百貨店・メルサ・セブン館の 3 館一体化改装工事に着手します。



【名古屋ルーセントタワー】

また、中区正木の名古屋スポーツガーデン跡地に、本年5月末の竣工を目指し、一棟貸しの賃貸ビル「名鉄正木第二ビル(鉄骨造3階建/延床面積1,890.09㎡)」を建設するなど、低利用・未利用土地の活性化を図り安定収入の確保に努めます。

このほか、名鉄ビルや名鉄バスターミナルビルなど当社所有ビルにおける設備機器類の更新などを実施します。

## 2. その他 <3,200 万円 >

明治村で村内バスの増車や飲食店舗を新設するなど、レジャー施設における顧客サービスの向上を図ります。

---

### その他 [7 億 9,100 万円]

---

SFカードシステムや駅集中管理システムに対応できるネットワーク容量にするため、LAN機器を更新し、パノラマスーパーネット(駅や本社などを結ぶ社内LAN)の更新・構築を進めるほか、職場内のコンピュータ機器類を更新するなど、IT環境の整備を図ります。

また、空調機器類の更新など、職場環境の改善に努めます。

以上